

平成21年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	多摩地区専門学校チャレンジプログラム		
法人名	学校法人国際文化学園		
学校名	国際文化理容美容専門学校国分寺校		
代表者	鈴木 隆	担当者 連絡先	小林 理恵 042-321-0002
1. 事業の概要等			
<p>(1) 経緯・背景</p> <p>多摩地区専門学校チャレンジプログラムは、多摩地域内の高等学校と専修学校との全面的な連携教育事業の枠組みとして、高校生が専修学校の授業を継続的に受講できる制度である。平成16年7月に多摩地区高等学校進路指導協議会（公私立加盟約120校）と多摩地区専修学校協議会（加盟30校、うち専門学校チャレンジプログラム参加校は平成21年度前期実績で13校）の協定により実施された。平成2008年度より標記委託事業となっている。平成21年度までの参加高等学校数は約60校以上にのぼり、また神奈川県、千葉県、埼玉県、山梨県など多摩地域以外からの高等学校も多数含まれており、これまでの参加高校生延べ人数は約470名である。本事業は、地域の高校生に進路先の授業等を継続的に体験させる機会を提供するというだけでなく、専修学校の地域社会への貢献という側面をもつ、広域的な高等学校と専修学校との連携教育事業であると言える。</p> <p>(2) 特徴</p> <p>多摩地区内の専修学校（多摩地区専修学校協議会）が主体となり、特定の学校間連携ではなく、多摩地域内の高等学校（多摩地区高等学校進路指導協議会）との全面的な連携教育事業として、専修学校の機能を活かした講座及び実践的な実習体験講座等を高校生に授業料無料にて、継続的に複数回にわたって提供する。本事業を実施する専門学校は、ほとんどが受講する高校生のためだけのカリキュラムを作成している。単に体験学習にとどまることのないよう講座の中に職業に就くための資格等の説明やキャリアガイダンスなどの講義を加え、一日あたりの授業時間は、各専門学校により異なるが、職業の一端を体験できる実習内容や講座を実施する。受講を希望する高校生は、所属高等学校学校長の推薦を受けたエントリーシートを、受講希望の専門学校へ提出し、専門学校は受講の可否を高等学校へ通知する。本年は昨年実施した調査結果により、講座数の増加と内容の多様化を図り、また同じ講座であっても実施時期や時間帯を複数設定することでより参加しやすい状況を設定した。本事業の主題は、専修学校を活用した職業教育を通じて、職業理解と社会理解を促進し、高校生の就労意識啓発及び、望ましい職業観・勤労観の醸成を図り、高校生のキャリア形成を多方面から支援することが目的である。</p> <p>(3) 事業の概要</p> <p>参加専門学校数： 前期13校 後期9校（昨年度 前期12校 後期11校）  提供講座数： 前期26講座 後期11講座（昨年度 前期20講座 後期17講座）  実施講座数： 前期10講座 後期7講座  参加高等学校数： 前期20校 後期28校（昨年度 前期36校 後期38校）  受講者数： 前期42名（昨年度 前期72名）  〔内訳：高1生3名、高2生1名、高3生38名、高4生1名〕  後期52名（昨年度 後期59名）  〔内訳：高1生0名、高2生13名、高3生40名、高4生1名〕  講座開催時期： 基準日を平成21年6月1日～平成22年3月6日と設定  シンポジウム： 平成21年11月13日開催〔参加者 教育関係者・報道関係者等 約150名〕</p>			

## 2. 事業の実施に関する項目

### ①職業体験講座の実施

実施校		講座名		日程
1	日本工学院八王子専門学校	1	はじめてのプログラミング〔前期〕	7/27, 7/31
		2	マンガ・アニメーション制作の基礎〔前期〕	6/7, 6/14, 6/21, 6/28
2	東京多摩調理製菓専門学校	3	日本の包丁技術を学ぶ〔前期〕	6/10, 6/11
		4	中国の包丁技術を学ぶ〔前期〕	6/17, 6/18
		5	西洋の包丁技術を学ぶ〔前期〕	6/24, 6/25
		6	製菓の道具の使い方を学ぶ〔前期〕	7/8, 7/9
3	二葉栄養専門学校	7	調理師科・栄養士科・管理栄養士科 (特別コース)〔前期〕	6/13, 6/27, 7/11, 7/18, 7/25, 7/26, 8/1, 8/2, 8/8
		8	調理師科・栄養士科・管理栄養士科 (特別コース)〔後期〕	10/10, 10/24, 11/14, 12/5
4	国際文化理容美容専門学校 国分寺校	9	理容・美容科コース(水曜日)〔前期〕	6/10, 6/17, 6/24, 7/1, 7/8, 7/15, 8/26, 9/2, 9/9, 9/16, 9/30, 10/7
		10	美容科コース(土曜日)〔前期〕	6/6, 6/13, 6/27, 7/4, 7/11, 7/18, 9/12, 9/26, 10/3, 10/10
		11	理容・美容科コース(水曜日)〔後期〕	11/25, 12/2, 12/9, 12/16, 1/13, 1/20, 1/27, 2/3, 2/10, 2/17, 2/24, 3/3
		12	美容科コース(土曜日)〔後期〕	11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/12, 1/9, 1/16, 1/23, 2/6, 2/13
5	アポロ美容理容専門学校	13	理容・美容技術実習〔後期〕	11/3, 11/21, 12/12, 1/16
6	東京YMCA医療福祉 専門学校	14	死生学〔前期〕	6/18
		15	死生学〔後期〕	10/15, 12/17, 12/21, 1/12
7	日商簿記三鷹福祉専門学校	16	介護予防で健康増進) (ケア・リフレクソロジー)〔後期〕	12/5, 12/12, 12/19
8	二葉ファッションアカデミー	17	「ファッション造形」 オリジナルジーンズ製作〔後期〕	11/11, 11/26, 12/10, 1/14, 1/21, 2/4

### ②シンポジウムの開催

参加受講生の増加を目的に教育関係者への周知と啓発及び、実施状況と6年間にわたるこれまでの経緯報告を目的にシンポジウムを開催した。委託実施委員を中心にシンポジウム実行委員会を組織し、平成21年11月13日に立川グランドホテルに於いて本事業を主題としたシンポジウムを開催した。

内容 ①チャレンジプログラム経緯報告／鈴木隆氏(委託事業実施委員長)  
 ②専門学校教員による模擬授業・パネル展示・映像紹介  
 ③基調講演／梅澤正氏(日本教育大学院大学客員教授)  
 ④パネルディスカッション  
 コーディネーター／生駒俊樹氏(京都造形芸術大学教授)  
 パネリスト／本事業への参加高校生・専門学校生及び高等学校・専門学校教員

後援 多摩地区高等学校進路指導協議会・多摩地区専修学校進路指導協議会・  
 日本キャリアデザイン学会

### ③その他

本事業においても参加高校生数の増加は課題であり、委託事業により充実した事業運営が可能となることを目論み平成 21 年度は社団法人東京都専修学校各種学校協会より委託申請を行い平成 21 年度は、法人格を有していない多摩地区専修学校協議会の代わりに代表幹事校として学校法人国際文化学園国際文化理容美容専門学校国分寺校が申請を行った。本事業は、多摩地区高等学校進路指導協議会による先進的な地域内の大学・短大・専門学校との段階的な連携プログラムの実現によって平成 16 年度より開始されたものである。

本事業は、多摩地区高等学校進路指導協議会の長年にわたる高校生のための就職指導、進路指導研究、企業研究及び、進路支援活動を基盤に連携教育として実現したものであり、高校生のキャリア形成支援のための地域に開かれた枠組みとして、今後も多摩地区高等学校進路指導協議会と多摩地区専修学校協議会の連携により本事業の発展拡充を図る。人的・経済的な負担を担いながら専修学校の果すべき社会的な役割と責任という観点からも大きな意義のある事業である。

## 3. 事業の成果・評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況・評価について

#### (1) 目的・重点事項の達成状況

今回、参加高校生のアンケート調査から、本プログラムを受講した理由として「自分が希望する職業への関心、自分が希望する分野の授業・実習への関心」が大多数を占めた。その後の受講生満足度調査では、9 割以上の受講生が「大変満足した」と回答している。なかには「オープンキャンパスよりも、詳しいところまで学べる」と回答している受講生もあり、特に受講生の高い満足度は本事業の特長である。通常専門学校で実施されている 1 日だけの体験入学等のイベントと違い、継続的に長期間行うという本プログラムの目的が達成されており、このことは調査研究報告でも明らかとなっている。（詳細は実施報告書を参照）

#### (2) 評価【調査研究報告】

事業評価は、多摩地区専修学校協議会より調査責任者として専任されている京都造形芸術大学教授の生駒俊樹氏にアンケート調査を依頼し、高等学校教員、受講生、専修学校教員に質問紙法による調査研究を行った。（詳細は実施報告書を参照）

##### 1. 高等学校教員調査

〔満足度調査結果〕 大変満足 (61%) やや満足 (28%) 普通 (11%) やや不満 (0%) 大変不満 (0%)  
満足の原因 (一部抜粋)

属性	記述内容
都立高校・普通科	実際に体験することにより、不安を抱えている生徒の背中を押してくれる感じであった。
都立高校・普通科	適正のある生徒は、そのままプログラムで学んだ分野に進んでいる。又、向いていないと気づいた生徒には新しい方向性に向かわせるチャンスになる。
都立高校・普通科	参加した生徒が「この道に進みたい」という決意を一層固めて帰ってきたから。
都立高校	技術等の知識やシステムが理解でき、納得して選択ができたようです。

##### 2. 受講生調査

〔満足度調査結果〕 大変満足 (95%) やや満足 (5%) 普通 (0%) やや不満 (0%) 大変不満 (0%)  
満足の原因 (一部抜粋)

属性	記述内容
公立・全日制・普通科	高校生のうちに美容学校の雰囲気や授業を体験できたので、進路を考えるのにとっても役立ちました。
公立・定時制・普通科	どういった授業を学べるのか、少し不安でしたが、参加してみても楽しかったです。また、もっと深く学びたいと思いました。
私立・全日制・普通科	いろんなことを学べたし、同じ夢をもった皆といろんな話をできる環境ができてすごく充実していると思った。
公立・単位制・普通科	とても勉強になったし、90 分の授業の大変さも入学前に体験出来たので良かったです。

### 3・専門学校教員調査

本事業の実施内容に対する自己評価（一部抜粋）

分野	記述内容
医療福祉	授業を一つしか公開していないので、今後は増やす方向で考えたい。
調理	終了後のアンケートの感想では、「今回のイベントに参加して、活字では理解できない部分が理解できた」という内容が多く、やはり実体験の重要性に重きをおいた内容（体験授業）を今後もより取り入れたいです。
理容美容	時間数が限られている中で、1回の授業のボリュームが多いので、要点をまとめて伝えた。高校生の真剣な様子が伺えた。

生駒俊樹氏（京都造形芸術大学教授）の調査研究報告により、参加した高校生のキャリアガイダンス機能をはたしていること、高等学校の先生方の期待に合致していること、受講生の高校生活にも良好な影響を及ぼしていることが明らかとなった。また生徒を迎え入れる専門学校教員側も本事業の特徴と目的を理解したカリキュラムを構築しており、その点も、本事業は一過性のイベント的なオープンキャンパスなどと異なり、参加専門学校が専門分野の「職業学習」を継続的に体験できる独自のカリキュラムを構築していると高く評価されている。そして生徒を送りだしている高等学校教員の満足度も非常に高い。しかしながら依然として全体的に参加高校生数が増加しない状況は今後の課題であり、最適な告知方法や進路指導の位置づけ、本事業の広報システムの構築の必要性が指摘されている。今後も多くの高等生に活用してもらえようような実施運営体制充実の必要性が明らかとなった。

## ②次年度以降における課題・展開

### 1. 今後の事業展開

本事業は、各専門学校における充実したカリキュラムの提供が、高校生生活との両立等から参加エントリーへのハードルを高くしている面も否定できない。今後は、エントリー方法や実施時期などについて、より柔軟で高校生が参加しやすい制度設計の見直しも含めた検討が求められる。そして専門学校側においても授業時間以外に本プログラムの受講生を受け入れて、指導にあたるということの人的・経済的な負担も無視できないが、さらなる参加専門学校数の増加も望まれるところである。本事業の社会的な貢献という側面からも、標記事業が国の施策として推進されたことの意義は非常に大きい。そして高等学校における進路指導の一環としての確かな位置づけがなされることで、さらに多くの高校生のキャリア支援として本事業の有効性を発揮されることが期待されている。そのためには組織的に多様な広報システムの構築が必要である。教育委員会やキャリア支援を担当する教育行政等関係機関との連携も課題である。さらに現在毎年7月に実施されている「多摩地区 高校生 夏休み授業体験」は、東京多摩私立大学広報連絡会と共同で実施されているが、高大連携事業をも包括した新たな高大・高専の連携という事業展開が図れれば、東京の多摩地区において全国的にも類を見ない高校生のための「（大学・短大・専修学校）連携教育事業」へと発展する可能性も秘めている。

### 2. 参加高校生の推移

本事業においても参加高校生数の増加は課題であるが、高等学校側からの情報提供と高校生の主体的な参加意志を前提としている制度上の特長からも、地道な情報提供によって、切実に必要とする高校生のために今後も継続的に本事業を展開していくことが重要である。昨年度実績よりも今年度の参加高校生数が減少した理由は、平成20年度に本事業が委託事業となったことで、充実した告知・広報活動が展開できたことで一時的に参加者が増加した原因と推測される。また本事業の意義と役割を周知するために、シンポジウムの開催により広く教育関係者への情報発信として一定の成果を得ることができたが、今後も広く社会的にも職業教育の意義と専修学校の役割を訴えていくことが必要である。研究報告書で生駒俊樹氏（京都造形芸術大学教授）が指摘するように今後の本プログラムの受講者数は、俯瞰的には、経済状況、国のキャリア支援施策、保護者の可処分所得や、子どもの将来像・職業観にかかわる意識などが、直接的には、教育委員会、各高校の管理職、そして高校の先生方が進路指導（「出口指導」）だけでなく、「進路指導」や「教育の職業的意義」をどのように捉え実践していくのか、などの諸要因が複雑に影響することが推測される。